

## Ⅱ章 計画地の現状と環境

本章では、本市の地理・自然環境、歴史的環境、本史跡に関する市民意向を整理する。

### 1. 地理・自然環境

#### (1) 久留米市の位置と概要

筑後国府跡のある本市は、福岡県南西部に位置し、東はうきは市、西は佐賀県、北は朝倉市と大刀洗町・小郡市、南は八女市・筑後市・大川市、八女郡広川町、三潴郡大木町に接する（図2-1-1）。平成20年（2008）4月には中核市に移行し、現在は福岡県南地区の中心都市としての機能を果たしている。

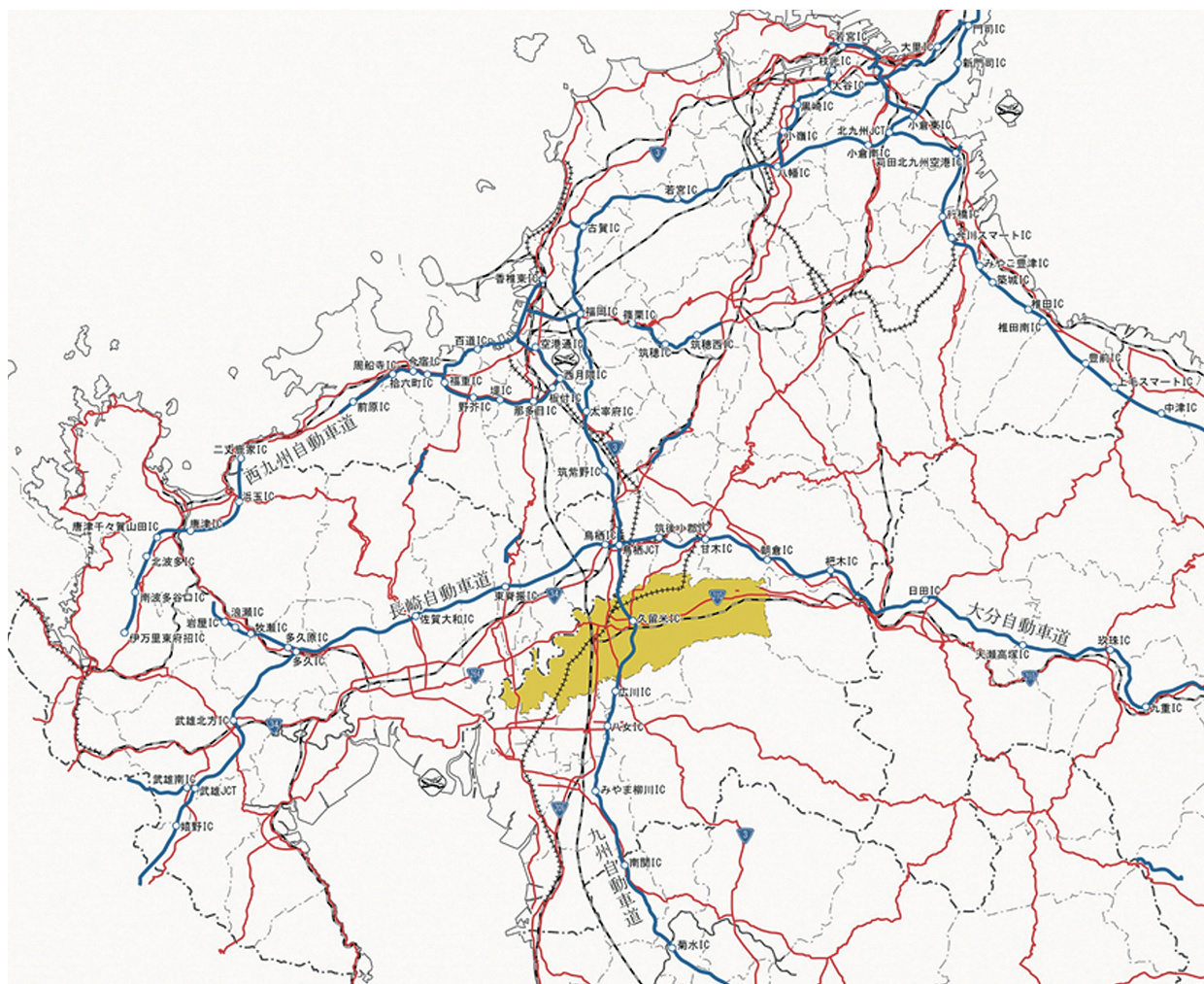


図2-1-1 久留米市位置図

本市の人口は、大正9年（1920）以降、一貫して増加が続いていた。しかし、少子化や市外への転出などの影響により、平成17年（2005）の306,434人をピークに減少に転じ、令和2年（2020）時点で303,316人となっている。

産業構造としては、15歳以上の就業人口に占める第1次産業の割合が5.2%、第2次産業の割合19.1%、第3次産業の割合が72.2%、分類不能産業が3.5%となっており、第3次産業の

中では卸売・小売業と医療・福祉関連の就業者数が多く、近代以降の商都、医療の町としての本市の特性が現在も息づいていることが分かる。

また、本市は肥沃な土壌と豊富な水などを背景として農業が盛んであり、令和4年（2022）市町村別農業産出額（農林水産省公表値）をもとにした試算によると、本市の年間農業産出額は324.7億円にのぼり、県内で1位、九州沖縄で11位となっている。

市内には九州の大動脈である九州自動車道と国道3号が縦断し、加えて209号・210号・264号・322号と多くの国道が通っている。JR線は鹿児島本線と久大本線、九州新幹線や、西鉄天神大牟田線・甘木線が市内を走る（図2-1-2）。このように本市は周辺市町村のみならず、九州における広域交通ネットワークの結節点に位置しており、恵まれた交通環境を有している。

なお、本史跡へは自家用車のほか、JR久大本線や路線バス等の公共交通機関、自転車や徒歩による来訪が想定される。

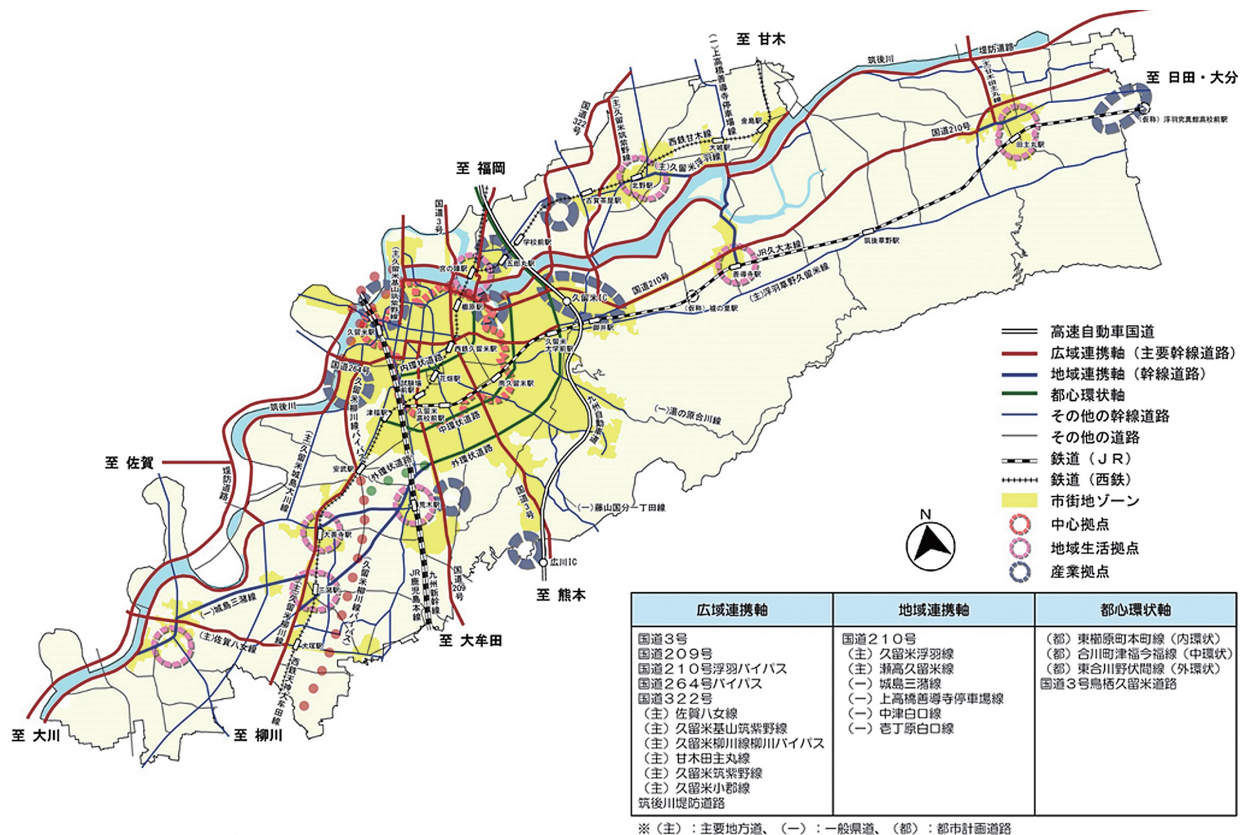


図 2-1-2 交通網図

本市には、筑後川や耳納山地に育まれた豊かな自然をはじめ、歴史や文化、食など様々な魅力がある。最近10年間の観光入込客数は、増加傾向を示しており、平成30年（2018）に初めて600万人を超え、翌令和元年（2019）には614.3万人を記録している。令和2・3年（2020・2021）には、新型コロナウイルス感染症の影響で360万人程度に激減したが、感染拡大に伴う行動制限が緩和された令和4年には435.6万人となっている。

令和4年の目的別観光入込客数を見ると、全体の66.7%が「一般行楽」を目的とし、次いで、「祭・行事」が全体の20.0%、「社寺・文化財・史跡」が全体の7.2%となっている。祭・行事も歴史・文化に起源をもつものも多いことから、観光客の約30%が、観光を通して本市の歴史遺産に触れていることが窺える。